

# 10年後の岩手の農業・農村の姿（2030年頃のイメージ）

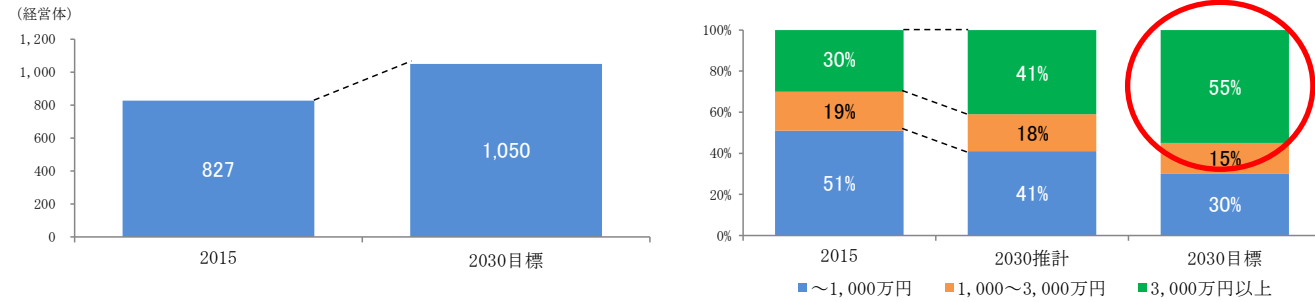
【資料5】

## 農業

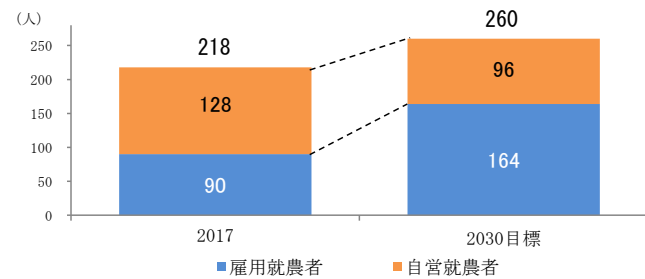
○ 就業人口は減少するものの、リーディング経営体の育成、スマート農業や省力化技術の普及、農畜産物の付加価値の向上等により、農業産出額（農業の経済規模）を維持

家族・仲間と楽しく働き、仕事・収入を得る幸福

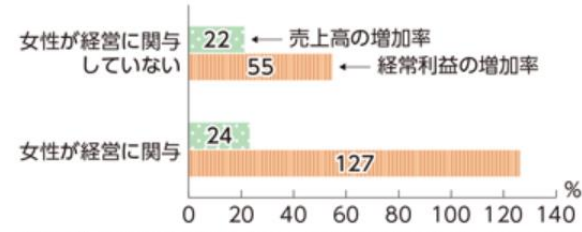
○ 販売額 3,000 万円以上となる経営体は約 1,050 経営体、産出額の過半（55%）を生産



○ 新規就農者は目標 260 人を確保（雇用就農 6 割）

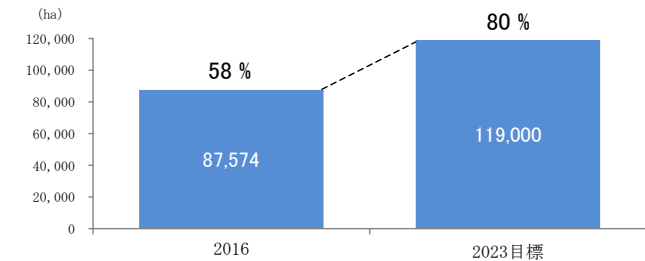


○ 女性農業者・経営者の活動が活発化



資料：株式会社日本政策金融公庫「雇用状況等の動向に関する調査」（平成28（2016）年7月調査）

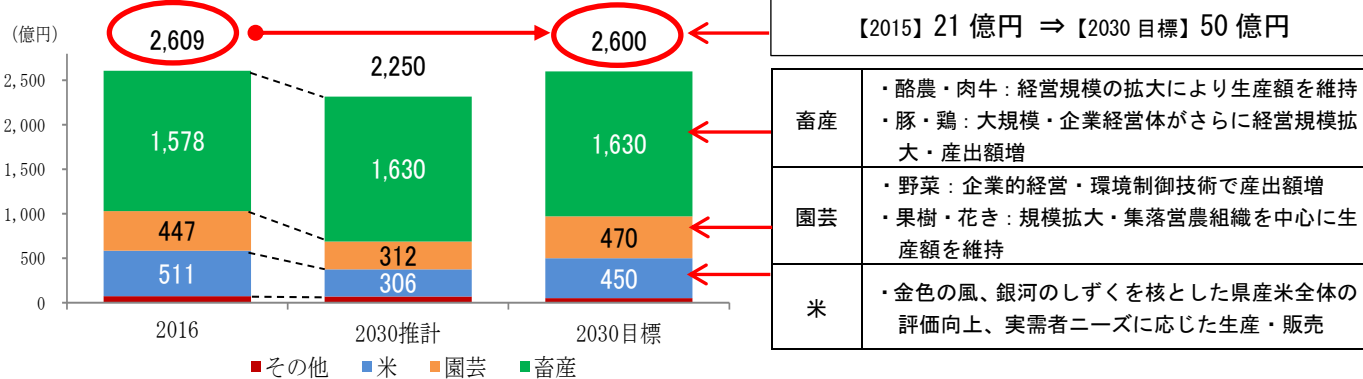
○ 約 8 割の農地を担い手に集積・集約化 → 集積・集約された農地で効率的な経営を展開



○ スマート農業や省力化技術、農福連携・外国人就労などの活用により労働力を補完



○ 農業産出額は、水田への園芸品目導入など、野菜・畜産物の生産増により H28 水準を維持



○ インバウンド消費と連携した農林水産物の輸出

【2015】21 億円 ⇒ 【2030 目標】50 億円

品目	説明
畜産	・酪農・肉牛：経営規模の拡大により生産額を維持 ・豚・鶏：大規模・企業経営体がさらに経営規模拡大・産出額増
園芸	・野菜：企業の経営・環境制御技術で産出額増 ・果樹・花き：規模拡大・集落営農組織を中心に生産額を維持
米	・金色の風、銀河のしずくを核とした県産米全体の評価向上、実需者ニーズに応じた生産・販売

## 農村

緑あふれる農村で、いきいきと暮らす幸福

○ リーディング経営体や常雇用する経営体の増加、6次産業化やグリーンツーリズムなどの地域内発型産業の活性、農村生活を支える活動の進展により、農村地域における収入を得る機会や働く場を創出し、移住・定住人口を確保

○ 6次産業化やグリーンツーリズム等の進展により農村地域での人・経済の交流が活性化

区分	2015	2030 目標	2030/2015
農産加工	8,122	10,700	131.9%
産直	17,694	23,000	129.9%
観光農園	411	600	141.9%
農泊	201	300	142.7%
レストラン	574	800	133.5%
計	29,855	38,300	128.3%

区分	2016	2030 目標	2030/2016
農林漁家民宿利用数（日帰含）	30	40	133%
観光農園利用者数	213	270	126%
農林漁家レストラン利用者数	867	1,050	121%
体験型教育旅行者数	29	40	137%
合計	1,139	1,400	123%

○ 日本型直接支払制度の取組拡大により農村地域の環境・景観を保全

区分	2017	2030 目標	2030/2017
中山間地域等直接支払	23,929	29,400	123%
多面的地域等直接支払	74,629	92,700	124%
環境保全型農業直接支払	4,078	4,500	112%

○ 集落営農組織や日本型直接支払制度の取組組織を中心に“営農”、“暮らし”など農村生活を支える地域運営組織が活性化

- ・ 経済：収入づくり（営農）、特産品づくり（6次化）、雇用機会の創出、移住・定住の促進
- ・ コミュニティ（自治）：地域活動、景観保全、環境保全、防災活動、むらづくり、文化継承

